

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501193		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・与野本町 2階フロア		
所在地	埼玉県さいたま市中央区本町東4-17-4		
自己評価作成日	平成 29年 7月 17 日	評価結果市町村受理日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 8月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階フロアでは、季節を感じて頂ける壁面作りをご利用者様と一緒に手作りし、季節毎の催し物の際には職員手作りの仮装を行い、楽しみながら暦を感じて頂ける機会を作っています。歌がお好きな方にはCDやビデオを流しながら一緒に歌い、植木のお好きな方には一緒に外へ行き、季節にあった野菜やお花の水やりや成長を見る機会を作り、お話しがお好きな方には新聞やスーパーの広告、テレビなどを見ながらお話ししたりと、お一人お一人の趣味や特技を共有しながら日々の楽しみや充実できる生活に繋げていける支援に取り組んでいます。また、体操では職員それぞれ個性のある体操を取り入れ、口・足・歌などを取り入れた体操や風船やボール、棒などの運動を取り入れたレクリエーションを行い、体操が苦手な方でも自然と身体が動きかけになるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

永年勤める職員が多く、理念・目標を職員間で共有している。室内にレクリエーションで制作した作品や写真が多く飾られ、日々の様子をうかがい知ることができる。事業所と医療機関の関係が良好である。歯科医・歯科衛生士・医師・看護師の来訪が多く、利用者の健康状態を観察している。また、事業所は、閑静な住宅地にあり、直ぐ近くを小川が流れ、季節の花が楽しめる。それを利用者は楽しみにしている。保育園とは、園児が訪れたり、卒園式に招待されたりと交流が盛んである。同区域内にある高齢者施設・障害児施設とは、避難訓練・イベントなどを通じ、連携を深めつつある。災害対策においては、関連の警備会社との連携が密であり、駆けつけてくれる体制が整っている。庭先で栽培したゴーヤが食卓にあがるなど食事からも季節を感じられるようにし、各地の郷土料理が、好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りの中で、ホーム理念を振り返る場を作り、職員同士で共有しています。ユニット入口に掲げ、改めて認識し直せる機会になり、次に活かせるよう実践に繋げています。	法人理念の他に、事業所の理念・目標を掲げている。年度初めに、事業所理念の変更の有無を会議で話し合っている。また、今期目標は、管理者が、職員全員に質問し発言を促し意見を集約して作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、ハロウィン、卒園式等の季節ごとの行事で近隣保育園と交流の場を回り、地域のボランティアの方にも訪問して頂き、少しずつ交流を深めています。	近隣の保育園との定期的な交流があり、夏祭りには、お神輿が事業所まで来ている。音楽や踊りの地域ボランティアの来訪がある。近くに高齢者施設・障害者施設があり、イベントの交流など関係を築きつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広告や看板を通じてや、レクリエーションを行う際に近隣ヘチラシを配布し、認知症への理解へと繋がるよう取り組んでいます。また、地域のボランティアの方や外部の方の見学を随時行い、理解に繋げています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多くのご家族に参加頂き、包括支援センターや高齢介護課を交え、ホームでの状況や取り組みを報告し、意見交換を行っています。あらゆる方面からの貴重な意見を活かせるよう努めています。	年間のスケジュールが確定し、併せてランチ会を開催し、家族が参加しやすいように工夫している。不参加の方には、議事録を送付している。食事に関する議題から、ラーメン、餃子が取り入れられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、ホーム内での状況やご利用者へのサービスの取り組み等を伝えていながら、情報交換を行い、市町村との連携が図れるよう、取り組んでいます。	市担当者とは、各種の相談報告で連絡を取りあっている。部署によっては、顔見知りの関係である。区主催の研修には、可能な限り出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて全職員に周知させ、毎月の委員会では再確認の場として、意見交換を行ったり、今後のケアに繋げるための勉強会を行っています。ユニット出入り口は解錠し、ご利用者にとって窮屈のない生活が送れるよう取り組んでいます。	毎月、身体拘束・虐待についての研修を行っている。職員が順番でニュース・事例をピックアップして研修資料を作成し、職員主体で進められている。拘束を防ぐために、離床センサーを利用するなどの対応をしている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から声かけや言葉使いについて職員間で話し合い、どのような場面で虐待が起こりうるか勉強会を用いて周知させ、事業所内での虐待ゼロに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方います。日頃からご利用者の意向やご様子など、ご家族や関係者に伝え、双方の関係が維持できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族に見学に来て頂き、説明を行っております。契約時には充分に説明し、ご家族・ご利用者の不安や疑問、意向を話し合える場を作り、お互いの理解を深められるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、積極的にコミュニケーションを図り、要望やご意見を機会を作り、思いをくみ取れるよう努めています。また、ホーム玄関にご意見ポストを置き、お客様相談室のフリーダイヤルも設置しております。	家族面会時や、意見ポスト、アンケートなどから意見・要望を聞いている。歩行訓練の要望には、個別にて対応している。家族からの問い合わせに全職員が答えられるよう新たにノートを作成し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや連絡ノートを活用し、誰でも意見を出しやすい場を作れるよう努めています。職員会議や申し送り等で、意見交換や提案を行い、運営に活かせるよう努めています。	毎月の会議のほか、普段より意見を聞くようにしている。職員発案で、創作活動を行い、利用者の意欲を引き出している。業務の見直しについても話し合わせ、食器洗いの担当や、休憩時間の変更が行われた。	今期目標の「笑顔あふれる家づくり」を推進するためには、職員の協力が必要となる。利用者や家族が笑顔になるような活動等の企画・運営を、更に職員全体で取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、自身の振り返りの場を作っています。日頃の勤務状況をヒアリングしながら相互確認し、意見や要望、職場での環境の把握をし、各自が向上心を持ち働けるような職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量やスキルを個々に把握し、苦手な分野の克服や今以上のスキルアップを図るため、各種研修を開催し、研修内容を閲覧し職員間で共有しています。働きながらスキルアップできるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他施設へ訪問する機会を作り、同業者と交流する機会を設けています。その中で意見交換や実践状況を知り、互いを高め合える取り組みに繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや不安なことを聞き出せるよう傾聴し、ご家族からの情報や意見を取り入れ、安心に繋がられる関係作りに努めています。アセスメント等、情報収集を細かにしながらニーズの把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前後に、しっかりとご家族の要望や悩み、不安なことを十分に聞きとり、解決に導いていけるよう努めています。ご入居後の様子もこまめに報告し、安心して信頼できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意向や必要としていることを見極めて反映し、安心してサービスを受け入れるよう提案させて頂きながら、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念として掲げている「ゆっくり一緒に楽しく」を念頭に、ご利用者と職員が共に暮らし、一緒に共有する中で、人生の先輩から学ぶ姿勢を持ち、信頼関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日頃の様子や気付いたことをご面会の際やお手紙などでこまめにお伝えし、ご家族との情報の共有ができるよう努めています。支援の協力を共にできる関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご入居前からの馴染みの床屋やご自宅に出かける機会を作って頂いたり、知人やご兄弟の面会や電話などで繋がれるよう支援を行っています。	家族に確認の上、友人の来訪が多くある。美容院・神社等に変わらず通っている方や、年賀状の交換をする方、好みの新聞を購読する利用者もいる。また、以前から利用しているスーパーへ行くなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者同士の人間関係の把握をし、間に入ることで和やかな空間を作れるように努めています。毎日を共に過ごす仲間として、会話の橋渡しを行いながら、全員が笑いあえる雰囲気作りを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご利用者やご家族のその後の様子や相談等をお電話やお手紙などでやりとりができ、経過の支援に繋がられるようなホーム作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を2名ずつおき、日々の生活の中での様子や思いを表情から読み取ったり、密に聞き出せるよう対応し、職員間での意見交換や気づきを共有しながらケアに活かしています。	毎日の申し送り、毎月の会議等で利用者の希望等を話し合い、要望にそうようしている。表現の難しい利用者からは、表情・仕草等から職員で思いや意向を思慮し、意見を申し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅に居た時の生活やご様子をご家族やご本人に伺いながら、情報収集を行い、ご本人の暮らしを尊重しながら、今までの生活に近づけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の連絡ノートや申し送り、日々の生活記録を活用しながら、個々の生活リズムや心身状態を把握し、日々の表情や小さな変化にも気付けるよう情報の共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果をもとに、訪問診療医や訪問歯科医等の関係機関の意見や指示を取り入れながら、ご本人の意向とご家族の意向に沿って現状にあった介護計画を作成しています。	担当者が、個別の連絡ノート等を活用し、モニタリングを行っている。計画作成担当者は、家族、医師、看護師の意見を確認し作成している。作成後、担当会議を経て、家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目の届くところに介護計画表を常置しています。ケアプランに基づいたケアの提供を職員が意識し、個々に記録する中で、実践状況を確認しながら職員の共通理解に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問リハビリなど専門職や医療機関のアドバイスを頂きながら、連携を図り、その時々ニーズに合わせて対応できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアの方の来訪や保育園児との交流を行い、地域の中で安心して楽しい生活が送れるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人が希望される医療機関やかかりつけ医などを伺い、主治医を選出しています。主治医、ご家族、ご本人、職員との間で情報を共有し、適切な医療の提供ができるよう対応しています。	かかりつけ医、提携医の選択は可能である。提携医は月2回の訪問診療がある。看護師は、毎週訪問がある。提携医は、近隣の医院であり夜間の対応も可能である。医師の指示で専門医への受診へと繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問する医療連携看護師に日常での変化や気付き・状態報告を行い、助言を受けながら、適切な看護や対応ができるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には適切な医療ができ、早期に退院できるように、協力機関との関係作りを行っています。入院中にはこまめに面会し、病院関係者やご家族と情報交換、連携を密に行い、元の生活にできるだけ早く戻れるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を定めたものを用意しております。ホームで対応できること、困難なことを含め、ご利用者様の状態によってご家族や主治医と話し合いの場を設けております。	入所時に重度化等について書面を使い説明している。重度化・終末期にあたり、事業所で対応できることできないことを話し、利用者にとって一番良い方法で対応している。終末期の利用者には、毎月ケアプランを作成し、都度家族の意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、急変時や事故発生時における体制があります。研修や会議等を通じ、起こりうる事態をシミュレーションしながら職員同士で検討しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊による指導を受けながら、年2回の避難訓練を行っています。夜間を想定し、夜勤者1人の場合での避難方法を訓練を通して危機意識を全職員が身につけて実践出来るよう取り組んでいます。	年2回うち1回は夜間想定で避難訓練を行っており、消防署立会いの下、消火器訓練も実施している。警備会社との連携があり、すぐに駆けつけてくれる体制が整っている。自然災害マニュアル・備蓄品も整備済である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人の尊厳を損なわないよう、ご利用者への言葉かけや態度に留意しながら対応しています。	言葉かけは、状況・個人にあわせ人格を損なわない様になっている。入浴は、可能な限り一人で利用してもらい、見守りするようにしている。洗濯も要望があれば個別対応している。写真の掲載は、了承を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた、言葉かけや選択肢のあるお声かけを行い、なるべく自己決定出来るよう職員は助言などに留め、対応しています。表情や対応で思いが読み取れるよう寄り添う事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となるベースの一日の日課はありますが、個々の生活サイクルを尊重し、ご本人のペースを大切にしています。体操やレクリエーションの際は誘いし、過ごし方の幅を広げる機会に繋がるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡をみて身だしなみを整えたり、お好みの衣類を選んで着て、おしゃれを一緒に楽しんで頂けるお声かけ支援を行っています。訪問理美容やなじみの理美容室に出かけ、満足できる髪型に近づくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立をフロアに飾り、楽しみに繋がるよう話題に取り入れたり、ご利用者の号令と一緒に食事をして、楽しい時間を共有しています。食事前後のテーブル拭きや下膳のお手伝いをして頂いています。	食器洗い、下膳など利用者の能力に応じ一緒にしている。イベント食として、各地の料理や駅弁風の献立を提供して好評を得ている。利用者の状況を観察し、流動食から小型なおにぎりに変更した事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の状態に合わせた食事量、水分量、食事形態を支援し、残存能力やお食事のペースを見極め、把握に努めています。職員と一緒に食べることで毎食毎に確認し、必要に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お声かけで磨ける方、うがいをお手伝い出来る方、仕上げ磨きを必要とする方など、訪問歯科医や歯科衛生士の口腔指導のもと、個々にあった口腔ケアを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンやサイクルの把握と理解に全職員が努め、その方に応じたトイレへのお声かけ誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援をしています。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。意思疎通の困難な方には、表情や動きを察して誘導し、改善例がみられる。トイレ誘導への声掛け・ドアの開閉には、十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、主治医に相談しながら下剤の服薬管理を行っています。適度な水分補給や乳酸菌飲料の摂取をし、体操や運動を取り入れ、自然に身体を動かす機会を作れるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されることを事前にお聞きし、ご利用者様の好みに合わせた湯温の調整や入浴剤を使用しながらゆっくりと入浴して頂いています。	週2回、希望すれば毎日可能である。個人用のシャンプー・石鹸を利用している方もいる。同性介助を行っているが、難しい場合は、了承を得ている。入浴剤・音楽・浴室に飾付け等をする温泉レクは好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の休みたい時に居室で休んで頂けるよう支援を行っています。日中の生活状況・活動力を見直しながら、夜間の安眠に繋げていけるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、薬表を確認し、主治医からの指示や薬剤師からの薬の使用方法や指示、副作用等の説明を受けています。服薬による変化にすぐ気付くよう確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の得意とする分野を理解し、生活歴を知る中で、ホームでの生活で新たな特技やお好きなことが発見できるよう支援に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には希望によって散歩に出かけたり、外の植木に水をあげたりと気分転換出来る機会を作っています。ご要望によっては外食する機会を作ったり、ご家族の協力を得て外出支援を行っています。	季節により、近くの河畔の花を見学に出かけている。季節によって、駐車場にベンチを用意し外気浴を行っている。毎週、移動パン屋さん・豆腐屋さんが訪問し、可能な利用者は買い物をしている。家族との外出に対する支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失・盗難及び勘違いによる不穏が起こりうるため、管理者が管理しています。移動パン屋での買い物などご利用者の希望に沿って買い物をしたい時に使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご本人自ら電話ができるよう、携帯電話を持たれている方おり、ご家族の理解や協力を頂きながら支援しています。お手紙のやりとりが難しい方でも絵葉書にしてご家族にお渡しすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者と職員で手作りのものを飾り、季節を感じて頂ける壁面作りを行っています。ご利用者にあつた室温を保ち、なじみのある音楽を聴いて頂きながら、落ち着いて安らげる空間作りを行っています。	毎朝、日課として、職員と可能な利用者とはが清掃している。窓わきにソファ・観葉植物を配し、くつろぎの空間を作っている。壁・エレベーター内に写真を貼り、日々の様子がわかるようにしている。トイレの表示は、低い場所に配置し、わかりやすいようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際やフロア内にイスや縁台を置き、お一人でも気の合う方とでも自由に過ごせる空間作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたふとんやソファ、ラジオやぬいぐるみなどを居室に置き、なるべくご自宅の時と変わらず過ごして頂けるようご家族とご利用者と相談しながら行っています。	居室入口には、本人が作成した表札を掲げ、仏壇・ソファ・ぬいぐるみ等を持ち込み、個人の空間を作っている。家族の写真や作品を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の申し送りや会議でご利用者お一人お一人のできることやわかることを職員が理解できる場を設け、統一したケアを行う中で安全と自立に向けた生活に繋がられるよう努めています。		